

エゴマ栽培適性試験（7年目）

1. 目的

帯広市地域における「エゴマ富山早生種」の栽培適性を検証する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「富山早生種」、対照として「北海道産種」

(2) 面積および区制 : 総面積 200 m² (40m×5m (6畦))

1区 100 m² (各区 3畦)

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤土	緑肥	80cm×30cm	露地直播・べた掛け	5/26

※1株6粒播き1本立

土改資材 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)						病害虫 防除
	施肥時期	肥料名	窒素	燐酸	加里	苦土	
炭カル 60kg	基肥 5/21	豆用 2号 60kg	2.7	12.6	6.0	2.7	無

4. 試験結果

(1) 生育経過（季節及び作業内容）

		富山早生種	北海道産種
播種	月日	5/26	5/26
播種粒数	粒	6	6
べたがけ被覆	月日	5/26~6/15	5/26~6/15
出芽期	月日	6/6	6/6
補植（1回）	月日	6/22	6/22
間引き（2回）	月日	6/22、7/5	6/22、7/5
かん水	月日	無	無
開花始め	月日	8/24	8/27
成熟期（莢黄変 70%）	月日	10/4	10/16
収穫	月日	10/4	10/13
脱穀・調整	月日	10/24	10/24

生育状況

出芽は概ね良好であったが、一部出芽ムラがあったので補植を行った。間引きは6月22日と7月5日の2回行い、1株1本立とした。

6月中旬以降、多雨、日照不足の天候が続いたが、その間も高温に経過したことからエゴマの生育は順調に進んだ。生育前半は富山早生種が北海道産種より草丈が高かったが、生育後半は北海道産種の草丈が高くなった。9月中旬の強風により北海道産種で一部倒伏の発生がみられた。

開花始は富山早生種が8月24日、北海道種が8月27日で3日程度の差があった。成熟期（莢黄変70%）は富山早生種が10月4日で、同日に収穫を行った。北海道産種は成熟期末達であったが、強降霜のため10月13日に収穫を行った。

表 生育調査結果

調査日	項目	富山早生種	北海道産種
9/12	草丈(cm)	148.2	152.3
	節数(枚)	13.4	14.8

(2) 収量調査

収穫は富山早生種を10月4日に、北海道産種を10月13日に手刈りをし、ガラス室で乾燥させた後、10月24日に脱穀・唐箕がけを行った。その後洗浄3回行い、病害粒や屑粒、ゴミ等選別作業などの調整を行った。

10a 当たり製品収量は富山早生種が80.0kg、北海道産種が91.2kgで、北海道産種が富山早生種対比114%と高かった。

表 収量調査結果

項目	富山早生種	北海道産種
製品収量(kg/10a)	45.2	50.8

5. 考察

本年、出芽及び初期生育はおおむね良好であった。その後、6月中旬以降の多雨、日照不足の影響が懸念されたが、生育期間を通して高温天候で経過したことから、大きな影響は見られなかった。富山早生種は生育が順調で10月上旬までに成熟期に達し、製品収量が北海道産種よりやや少ないものの10a当たり82kg程度の生産量が確保できることから、本地域での栽培適応性はあると判断される。

富山早生種に比べ北海道産種は収量性はやや高いが、成熟期が遅いため早霜の影響が懸念されるので、早生種の導入検討が求められる。

○生育経過



初期生育 6.20



間引き後の生育 7.8



左：北海道種 右：富山早生 7.28
(現時点では富山早生の草丈が高い)



エゴマの開花 (富山早生) 8.24



左：北海道種 右：富山早生 8.24
(両品種の草丈はほぼ同じ)



左：北海道種 右：富山早生 9.30
(成熟期は富山早生が早い)